栽培から学んでほしい

三年の技術科の授業でミニトマトの栽培が始まったと、K教諭から聞きました。早速、放課後の技術室に行って、トマトの成長の様子を見てみました。

かわいい芽がたくさん出ていました。三年の皆さんが心待ちにしているのは、実をつける段階のトマトでしょうが、私はこういう芽の段階の方がワクワクします。黒い土の中からひょっこり顔を出したかわいらしい芽たち。これが成長して弦（つる）となり、立派な実をつけるのです。

しかし、ワクワクの一方で切なさも感じます。写真を見てもわかりますが、芽がたくさん出ていますよね。この芽たちが、実をならせるまで全てが成長するわけではありません。この中から一本に絞らなければならないのです。つまり、「間引く」わけです。同じように蒔（ま）かれて、同じように土から顔を出したのに、実をつけることができるのはこの中の一本だけです。

「芽を出したのだから、全部育てたい」と思った人もいるかもしれませんね。最初は、私もそう思っていました。しかし、全部育てると決して良い結果は得られません。土の中の栄養も分けなければなりません。同じように栄養を分けても、どうしてもよく成長する芽と、なかなか成長しない芽ができ、差が生まれます。そして、何といってもこのまま全ての芽を成長させたら、根が密集してどの芽も成長できなくなってしまいます。だから、最も成長しそうな一本に絞るわけです。

私は畑仕事が好きで、トマトに限らずよく種を蒔きます。土の中から目が出ると感動しますが、ある程度成長すると当然間引きます。その時が最も辛いときです。ほんのちょっと成長が遅いだけで、その命を摘まなければならないのです。いつも心の中で謝りながら間引いています。

野菜を育てる目的は「収穫」です。そのために、多くの芽が犠牲になります。選ばれた芽は大切にされ、さらに成長させるために肥料を与えられます。そして、子孫を残すために多くの実をつけるのです。

人間の世界とは全く違いますね。私たちは一人一人が大切にされ、全員に愛情が注がれます。成長に違いはあっても、それは決して比較されることがなく、個性として温かく受け入れられます。そして、皆が同じ実をつけるわけではありませんが、適材適所で社会に貢献します。これが人間の世界です。

栽培は根気の要ることですが、取り組む以上はそこから多くのことを学んでほしいと思います。植物は何も語らない分、察して取り組んでほしいものです。

（五月十四日　記）